第１回福井市文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会　議事録

日　時：　2016年 10月19日（水）9:00-12:00
場　所：　福井市役所8階　第1委員会室
出席者：　策定委員会　　山崎委員長、中西副委員長、石丸委員、今村委員、小原委員、古石委員、中嶋委員、野坂委員、野嶋委員、長谷川委員、（欠席）友廣委員
資　料：　議事次第、資料１ 文化会館整備スケジュール、資料２ 委員会協議資料、福井市文化会館パンフレット、市民ワークショップチラシ、アンケート

事務局

■次第１　開会
■次第２　委嘱式
■次第３　市長あいさつ
■次第４　委員長及び副委員長の選出
　　自己紹介
■次第５　文化会館整備スケジュール
（資料１　文化会館整備スケジュールの説明）
■次第６　協議事項　劇場・ホールの傾向と文化会館の現状と課題
（資料２ 委員会協議資料の説明）
①文化芸術環境の変化と劇場・ホールの変遷
・【第一世代-施主の時代】公会堂⇒文化会館　集会施設から舞台芸術施設へ
・【第二世代-芸術家の時代】芸術館⇒パフォーミングアーツセンター
　－多目的ホールから主目的ホールへ
　－主目的ホールから専用ホールへ
　－パフォーミングアーツセンターの誕生
　－パフォーミングアーツセンターの施設構成
・【第三世代-観客の時代、創客の時代】地域劇場・パブリックシアター
　－市民に愛される“地域の劇場”／欧米型“パブリックシアター”
　－市民参加-市民参画-市民主体
　－欧米型“パブリックシアター”＋創造型事業の強化
・【第四世代-創造の時代】芸術家と市民のコラボレーション
・共用部や練習室に特徴のある施設事例
・文化芸術環境の変化と劇場・ホールの変遷
・文化芸術関連施策
・一般社団法人 地域創造
・劇場・音楽堂等の役割
・第７次福井市総合計画での位置づけ（文化芸術関連）
・福井市教育振興基本計画での位置づけ
②劇場・ホールの規模と特性
・タイプ別空間特性
・主な市内施設の写真
・客席数及び演目によるホールの分類

委員意見　○　子どものためといった話をしているが、福井の現状として、文化はお年寄り向け、お年寄り主体のところが多い。芸術家や専門家が育てるといったレベルには至っていない。
　福井には専門的なホールはひとつもなく、こういった懇話会の中で話し合っても結果的には多目的に頼らざるを得ない。創客をするためには、まず移動手段、駐車場の問題を解決するべき。改修、建替ではなく、移転新設が望ましいのではないか。
机の上だけの話ではどうしても多目的なものとなってしまうので、ワークショップ、ア

ンケートで一般の人の意見もとり入れ、考えいけたらと思う。ある程度方向性をしぼってやらなければ議論が進んでいかない。いまの現状の文化会館でどうこうするという議論はできないのではないか。

○　愛知県芸術劇場が1年かけて改修を行うということで、なぜ1年休んでやるのかということを知りたい。なにが一番欠点になっていて、いまどういった方向へ行くのかといった資料が欲しい。

○　福祉会館は平成29年度で取り壊しが決定している。文化会館も改修、建替え、移転の3つの選択肢があるが、まずどれにするかということを1つにしぼってから議論してい ってほしい。

○　現状の文化会館では楽屋が使いづらく、駐車場やトイレについても課題がある。県立音楽堂をつくったのだから、音楽的なものをつくる必要性はないため、演劇ができるもので考えていく事が大きな特色となるのではないか。全国的なものを誘致することを考えるとある程度の規模は必要。劇団四季の劇場を見ていると1200、1300くらいの席数がある。音楽施設ではない専門性を持った、全国的な誘致をすることのできるある程度の座席数のものに建替えるか、改修するか、移転するかということを考えていかなければならない。

事務局　（資料２　委員会協議資料の説明）

③文化会館の現状と課題
・位置
・敷地
・施設概要
・参考：市民福祉会館施設概要
・ホールの稼動率
・利用者数
・本番/リハーサル別　利用件数
・用途/ジャンル別　利用件数
・催し件数と利用団体数
・利用団体･催し種別利用件数、使用人数
・例年ホールを利用している団体等
・大会議室の稼動率
・会議室・応接室の利用状況
・コンベンション利用状況
・文化会館についての要望／課題

④課題解決の可能性（改修・新築の違い）
・改修による課題解決の可能性
・改修・新築の相違点、メリット・デメリット
・近年のホール建設費事例

委員意見　○　連合音楽会は文化会館を利用している。バス代など経済的負担、距離的なことから生徒への負担はかかるが、教育的な効果は高い。福井市の真ん中にあることで、子どもたちが集まりやすいといった利点もあるのでは。連合音楽会では保護者席を設けてはいるが数が少ないため、4階後部座席の外の通路で立ち見となる。駐車場関係でのトラブルもある。

多機能型を子どもたちや教育現場の人間は使用したいと思っている。現状ホールの音楽的な効果というのは非常にデッドであるが、練習には向いている。

市民に愛されるとか親しまれる施設にするには、まちづくり、地域おこしをする人々との連携も大事になってくるのではないか。

○　学校の子どもたちの場合はバスで全員が移動するため集客ができるが、一般の方対象のイベント等の場合、確実に駐車場がいる。

○　そもそもこの文化会館をどういう目的で建てたいのか。市民に開かれた、というところにコンセプトに持っていくのであれば、若い人たちがもっと使えるような、あるいは年配の方でも使えるようなという点が必要。
いま高校生が何かする場がない。お披露目の場やみんなに聞いてもらえる場や、そういったことにふれる場が福井市内にはない。パブリックコメント、ワークショップがあるが、意見を広く求めないといけない。

○　公共交通の不便なところには作るべきではない。福井市の公共施設の集約化計画等、どうやってまちづくりをしていくかという戦略の中で考えなければならない。

事務局　　（資料２　委員会協議資料の説明）
⑤市民意見の反映について
・策定委員会と市民ワークショップの関連について
・ワークショップ、アンケートについての説明

委員意見　○　文化会館の利用には、本番以外のリハーサルが相当あるのではないか。重複申し込みの際はどうしているのか。リハーサル会場としてのサブ劇場、練習ができるようなものを考えていくべきではないか。福祉会館を取り壊し、その土地に新しく駐車場を新築した場合、何台程度入るのか。

○　公共交通の一番便利なところに作り、足りない分を駐車場で補うということをするべきだ。街中の路面電車の近く、福井市民の生活を変えるくらいの立地を考えるべきである。

（協議事項全般についての議論）
○　専門的なものに付随した多機能を要するような部所を設けるということなら良いが、まずひとつは専門的なプロも呼べる、いろいろな交流もできる劇場をつくるべきだ。今後50年は劇場を作らないのであれば、ひとつでもよいので専門的な劇場を残すべき、つくっていくべきだ。

○　市民に開かれたというような話があったが、本当に文化会館が機能するために必要か分からない。民間、小さな施設でもやれることがあるのでは。文化会館にはモニュメント的な部分も必要なのではないか。他の施設との住み分けも必要。アンケート、ワークショップ等をやるといろいろな意見が出てきてしまい、特色のないものができてしまうこともある。
場所としては、もっと交通の結節点に近いところがいいのではないか。

○　福井市には文化施設がたくさんあるが、他の施設ではなく文化会館を選ぶのはなぜかというところを調べてほしい。

事務局　　■次第７　その他についての説明
■閉会